



Be a gift to the world

国際ロータリー第2790地区 千葉南ロータリークラブ会報 THE ROTARY CLUB OF CHIBA SOUTH

〔創立〕1964年3月2日 〔例会日〕毎・金曜日12時30分 〔例会場〕オークラ千葉ホテル
〔会長〕伊藤 和夫 〔幹事〕石井 慎一 〔会報委員長〕廻 辰一郎
〔事務局〕〒260-0027 千葉市中央区新田町12-1 トーシン千葉ビル7階 (☎043-245-3204)

2015-2016年度

第2535回



平成28年3月25日(金) 点鐘 12:30 <晴れ>

- *ロータリーソング『それでこそロータリー』
- *四つのテスト ～言行はこれに照らしてから～
 1. 真実か どうか
 2. みんなに公平か
 3. 好意と友情を深めるか
 4. みんなのためになるか どうか

*** お客様紹介

- 本日のゲストスピーカー
淑徳大学総合福祉学科 准教授 松浦 俊弥様
- 千葉西ロータリークラブ 宮間 大輔様

*** 会長挨拶及び報告 伊藤 和夫会長

◆今日は淑徳大学・准教授の松浦先生に来ていただきました。松浦先生より「職場のコミュニケーションの“困った”を解決する Q&A TACMU(タクム)くん」を皆さんにプレゼントしていただきました。どうも有難うございます。

◆ロータリーでは、3月は「水と衛生月間」となっております。「ロータリーの友」3月号の18頁に「水を守る森を守る」という横浜ロータリークラブからの記事が掲載されております。ぜひとも皆さん読んでください。

◆国際ロータリーの日本版フェイスブックが開設されます。ロータリーをより知るためにもアクセスしてください。

アドレスで検索 <https://www.facebook.com/rotaryjapan>
ページ名で検索 国際ロータリー/Rotary Japan
或いは Rotary Japan を入力。

◆東仁川ロータリークラブから FAX が届いています。それによれば、5月28日韓国・ソウルで行われる国際大会の際、グローバル補助金で支援した「再活協会」の施設を訪問する段取りができています。千葉南ロータリークラブからは23人が国際大会へ参加する予定ですが、東仁川RCと合同例会を行う予定です。私は韓国語が話せませんが、挨拶くらいは準備する予定です。

◆4月8日は勝浦RCと合同でタケノコ狩り移動例会があるので、楽しみにしています。

◆何度か当クラブの卓話に来ていただいた落語家の月の家鏡太さんが真打に昇進され、月の家小圓鏡さんへと変わりました。先日の興行では3時間近く落語を聞いておりました。始終笑っていて帰るころには腹筋が痛くなりました。よく、一生懸命という言葉がありますが、落語では一笑懸命であるようです。

以上になります。有難うございました。

*** ニコニコボックス報告

《伊藤 和夫会長・石井 慎一幹事》
先週がお休みでしたので、皆さん、お久しぶりです。桜も咲き始めてきました。お元気でお過ごしでしょうか。淑徳大学総合福祉学科准教授 松浦 俊弥様、本日はようこそお越し下さいました。卓話『あなたの毎日に、福祉という翼を』どのようなお話しが聞けるのか、楽しみです。よろしく願いいたします。

千葉西ロータリークラブ・宮間大輔様、本日はようこそお越し下さいました。オークラホテルの美味しいランチを楽しみながら、どうぞごゆっくりお過ごしください。

《出井 清会員》
昨日、月の家鏡太さんの真打昇進襲名披露興行(上野鈴本園芸場にて)のお祝いに伊藤会長他6名で行って来ました。テレビでお馴染みの師匠連が場を盛り上げていました。

| | | | |
|-------------|---------|----|-----------|
| 本日のニコニコボックス | 3,000 円 | 累計 | 227,000 円 |
| 金の箱 | 100 円 | 累計 | 15,478 円 |

*** 出席報告 (会員数53名)

| | | | |
|--------|--------|-------|---------------|
| 出席者数34 | 欠席者数19 | ピンター2 | 修正出席率 73. 58% |
|--------|--------|-------|---------------|

千葉市内例会変更のご案内 [メーキャップにご利用下さい。](#)

| | | | |
|--------|---|-----------|----------------|
| 千葉RC | 月 | 4/4 | 三井ガーデンホテル千葉 |
| 千葉西RC | 火 | 4/12・4/19 | センシティブワー「東天紅」 |
| 千葉幕張RC | 火 | 4/26 | アパホテル&リゾート東京ベイ |
| 新千葉RC | 水 | 4/20 | 京成ホテルミラマレ |
| 千葉北RC | 水 | | ホテルポートプラザちば |
| 千葉中央RC | 木 | 4/7 | 三井ガーデンホテル千葉 |
| 千葉港RC | 木 | 4/28 | 京成ホテルミラマレ |

《本日の卓話》

演 題⇒『あなたの毎日に、福祉という翼』

卓話者⇒淑徳大学総合福祉学科

准教授 松浦 俊弥様



本日は有難うございます。淑徳大学におきましては、学生が千葉駅の周辺でよくアルバイトをしていますので、皆様方と接しているかもしれません。淑徳大学は、本年 50 周年を迎えました。これも偏に千葉の皆様のお蔭であります。紹介にありま

した通り、2013 年まで公立学校に勤務しており、最後は教頭でやめました。教育公務員が長かったです。その中で単に学校で教えるだけではなく、障害のあるお子さんが、ご家庭や地域でどう過ごしてどう生きていくのかということに大変関心を持つようになりました。そこで、障害児の放課後、クラブとか知的障害者の福祉作業所に教員をやりながら携わっていました。NPO 法人は公務員がやってはいけないものではないので、公務員をやりながらこうしたボランティア活動をして参りました。ただ、やはり公務員という縛りで、やりたいことがなかなかできないこともあり、また、淑徳大学からのお招きもあり、決心して現在に至ります。

本来は、特別支援学校の教員養成が本職なのでそちらの話をするべきですが、今日は皆さんが経営者でありますから、教育活動とは違った話をさせていただきます。

私は、株式会社メンタルケアコーポレーションのお手伝いをしています。その会社の社長のお子さんがダウン症であります。千葉市で暮らしておりましたところ、縁があり知り合いとなりました。「先生、一緒に日本の福祉を変えましょう」とお声掛けを頂き、一昨年よりこの会社の手伝いをさせていただいております。業務は福祉のコンサルティング、あるいは、養育玩具という小さなお子様が使う木のおもちゃですが、障害を持つお子様にも利用されていて、これを製造販売しています。こうした障害者福祉にかかわる仕事をしています。その一貫として、TACMUくんという本を執筆しました。これは、3 月末には発売されます。たぶん 4 月には朝日新聞一面の広告に載る予定です。

京セラの稲盛会長を中心とする盛和塾で、障害者差別解消法や障害者雇用促進法といった障害者に関する雇用機会について勉強しております。稲盛会長ですら、障害者雇用は難しくしたらよいか分からないと話しております。色々コンサルティングはあるけれども、現実的なものはない。何とかならないものかという話がありました。そこで、私が対策を考えました。

スマートフォンのアプリケーションで「TACMU くん」を開発しました。今も GOOGLEPLAY で手に入れることができます。会社の方や当事者が、このアプリケーションを操作することにより、障害者の対応に困ったときの対処が

適確に分かるというものです。ところが、企業経営者の方は比較的シニアの方が多く、アプリケーションよりも本が良いという要望がありました。そのため、今回書籍化しました。書籍化の前に、稲盛会長の紹介もあり、全国 3000 社以上の企業に意識調査をいたしました。障害者雇用の何に困っているかと聞いたところ、障害者当事者よりも、その周囲が困っているとの回答がありました。どう付き合ったらよいか分からない。彼のしている行為の意味が分からない。こういう回答がたくさん寄せられました。そこで、当事者だけではなく、その周囲の人が彼らとどうやって付き合ったらよいかということを中心としました。

最近では、障害だけではなく、コミュニケーション不足、すなわちコミュニケーションのできない若者がたいへん増えています。そういう彼らに対しても役に立つようになっています。例えば、会議があるから資料のコピーをお願いすると、必ず A4 の資料を A3 にする若者がいます。何度も注意しても A3 でコピーします。これは、会議の際に A4 の小さい文字の資料を読みづらくしている人がいる。そのために、文字を大きくしているそうです。ただ、この若者はこのことを言わずに、上司の指示を無視していることになってしまっている。

他には、どんな遠い場所にある電話がなくても、走って取りに行く若者がいます。周囲からするとそれは非常に異様なものです。しかし、その若者からすると、自分は障害があるので、人より努力しなければならないと考えていて、その一つが電話をとるという行動に出たようです。この行動を説明できていれば、何ら問題はないのですが、その説明ができない。その結果、周囲はどう対処したらよいか分からないということになっています。

その他にも、隣席に座った女性社員が、障害者を手助けするために親切に接すると、好意があると誤解をされてしまう。女性社員はいろいろ誘われてしまい困ってしまう。こういった悩みが日本全国の社員の方から寄せられています。そこで、当事者である社員やその幹部の方向けに本を書いたという次第です。ぜひ参考にさせていただいたら幸いです。こういったメディア出版関係の仕事を最近始めました。

弊社が一番力を入れているのは **CCRC (Continuing Care Retirement Community)** という活動です。CCRC は建築関係ではよく知られているものですが、この CCRC とは、定年になった後も引き続き地域でケアを受けられるというものです。CCRC はそもそもアメリカの施策です。アメリカでは比較的裕福な方は、勇退後ハワイやマイアミで余生を暮らすことがあります。そこには、そういった方を受け入れる巨大な施設があります。何千人単位で暮らしています。日本と違って、アメリカの人たちは、どちらかという地域に根付きません。場所を移動して生活することを苦と感じません。したがって、ニューヨークで働き、リタイアしたらハワイで暮らすということが一つのステータスとなっています。

安倍首相が昨年のものでデンバーにアメリカに行き、この CCRC を日本に導入したいとオバマ大統領と話をしたそうです。何百億の予算を使い日本に CCRC を作るようとしています。そのため、社長以下私どもは日本に

CCRC を作るため応援しようとしています。現在、山口、岡山、広島そして長野木曾町から、コンセプトデザインを求められています。コンセプトデザインとは、この街にはこういったCCRCが向いているのではないですかというコンサルティングです。これを積水ハウスさんと共同で行っています。

安倍首相が CCRC を日本に導入しようとしています。実は日本には根付かないだろうと考えています。その理由は3つあります。そして、その根付かないであろう理由を弊社がサポートしたいと考えています。

一つは、現在高齢者福祉が問題となっていることはよく知られているところです。例えば、川崎の高齢者施設で職員がお年寄りをベランダから突き落とすという事件がありました。この背景には、介護職員が少ないということがあります。

そもそも生産労働人口が減少しています。2020年には18歳人口が100万人減るといわれています。どこの大学でも新入生は約500~600人入ります。100万人減ということは、確実にいくつかの大学がつぶれるということです。新入生がいなければ大学はつぶれます。それだけ若い人が減るということは大きな問題です。福祉施設を作るということは大事なことです。問題はそこで働く若い人がいません。

かつて日本の社会はおみこし型であり、たくさんの若者が一人の老人を支えていました。ところが、それが騎馬戦型となり、今は肩車型となっています。つまり、一人の若者が一人の老人を支えているようになりました。そして、いずれは一人の若者が複数の老人を支えなければなりません。それだけ生産人口が少なくなっています。民間企業は少なくなった生産人口を確保したいと考え、給与をあげています。そうすると今まで福祉に進んでいた若者が、より給与の高い他の民間企業に行ってしまう。介護の現場はただでさえ、いわゆる3kです。きつい、きたない、きけんな業種です。そこに意欲的に働きに行こうとする若者はいなくなります。淑徳大学も福祉の人間を育てていますが、民間企業のオファーも多いです。そして、学生は条件のいいところに就職しています。淑徳大学を出て福祉の職業に就く人が少なくなっています。

福祉につく人たちは、高齢者に対して心の余裕を持ってなくなります。例えば、痴呆症にお年寄りなどは、いくら親切に接していても、叱られたりします。そのストレスの持って行き場がなく、極端な行動に出てしまう。

将来どういう人に介護してほしいか。資格もなく、意欲もない、誰でもいいやという人は少ないのではないのでしょうか。介護労働者をどうするのかということが、日本はまだ解決されていません。

二つ目は、高齢者だけでなく、様々な障害者がいます。日本には5人に一人は何かしら問題を持っていると私は考えています。発達障害というものがあります。例えば、スティーブンスピルバーグ、ビルゲイツやトムクルーズも発達障害です。見た目ではわからないのですが、対人関係に問題があります。こういう人が全人口の6.5%います。他にも一生のうちに鬱になる人が5%います。パーソナル障害の方も5%います。5人に一人が頭の問題を抱

え、さらに高齢者がいる。母子家庭、父子家庭他、たくさんの方が支援を必要としている。そうなると高齢者だけのCCRCでは成り立たない。支援を必要とする全ての人を支援できるCCRCが必要となってくる。

三つ目ですが、アクティブシニア、すなわち元気な高齢者である秘訣は3つあるといわれています。一つ目は人の中で生きること。二つ目は具体的な生きがいを持つこと。何十歳になったら何をしようということ。三つ目は人から認められて生きること。高齢者になると若者に甘えさせてもらうところがあるが、そうではなく、これに対しては高齢者のあなたの力が必要であるということをお知らせすることが大事です。こうした人が長寿の秘訣です。

会社をリタイアした後もこうした生き方を続けられるかです。生き方の選択肢というものがあります。高齢になったらのんびり暮らしたいという人もいれば、ぎりぎりまで働きたいという人もいます。いろんな選択肢があります。しかし日本の高齢者福祉の選択肢は非常に狭く、有料老人ホームやサービス付き高齢者住宅や特別養護老人ホームのように、人に手伝ってもらってゆっくり生きてくださいというものしかない。そうではなく、本人が望めば、ぎりぎりまで活躍できるという選択肢がない。

もし、CCRCを日本で作るなら高齢者だけでなく障害者と一緒に暮らせるようにしなければならぬ。障害者のお子さんが高齢者だっています。老障介護といわれます。こうした人も一緒に暮らせるような、ユニバーサルCCRCが必要である。そこに集まったアクティブシニアの方がお互いを支えながら暮らす。元学校の先生なら子供たちを教え、元保育士なら幼児を預かる。元介護職員なら、同じCCRCに暮らす障害者を介護する。障害者、高齢者様々な人々が相互扶助をする。想像するなら六本木ヒルズのようなものです。低層階に高齢者障害者施設。高層階に一般住宅として、アクティブシニアが低層階の高齢者障害者を支援する。こういう形を理想としている。安倍総理に提案しているところです。

幼少期に私は千葉で暮らしました。千葉は、空港やテーマパーク、海も山もあり、農業も盛んである。千葉県ほどCCRCに向いているところはない。東京で働いた人が沖縄に行くことはなかなかできないが、千葉のCCRCで暮らすことは楽である。こういった様々な理想を凝縮すると、私たちが提案する日本版ユニバーサルCCRCができあがる。それをいずれ千葉に作りたい。最低限2~3000坪の土地があり、その地主から意思を頂ければ、私たちがコンサルティングをし、積水ハウスとつなげ、国の補助金を持ってきて、CCRCを作ることができると思っています。

こうした夢を持って私どもは活動しています。また、何か困ったことがありましたら一言お声をかけてください。

有難うございました。

第2536回例会

日時⇒ 平成28年4月1日(金) 点鐘12:30

卓話⇒ 『会員ミニ卓話』

<会報当番：河原 大輔会員>